

委員	委員意見内容	訪問ヒアリングで出た意見	課題キーワード
横山委員 (スポーツ協会)	前回の計画の反省及び振り返り	①県スポ協にて、ホッケー体験フェスから変更して、川崎重工と岐阜車体と一緒に親子で楽しめるイベントを実施するのはどうか。(川重と岐阜車体には、元ホッケー選手がいる) また、発信も企業や商工会議所から発信するのはどうか。	スポーツの実施機会 スポーツへのアクセシビリティ スポーツの認知度 スポーツに関する周知
	ホッケー協会への内容確認	②スポーツげんき祭以外でも、(スポーツ協会と)触れ合う機会があってもいい。現在の市民公園から、総合運動公園を追加して実施するのはどうか。また、体験できる種目を増やすのもいいかも知れない。時期的には6月末までの間にイベントがあるといい。 ③ホッケーのイベントを実施しようとする、秋以降は他大会の予定が入るので、市コートでの実施になってしまう。春のイベントの企画ができるとよい。 ④試合のライブ配信を検討するのはどうか。 ⑤「ホッケーを通じて展開すべき施策」について、アジア大会実施時等で、小中学生10人程度を抽選で招待するのはどうか。 ⑥各国との交流方法を模索。各小中学校から学生を集めて、どのかの国のチームとホッケー交流を実施、公式練習の招待をするのはどうか。	

委員	委員意見内容	訪問ヒアリングで出た意見	課題キーワード
三村委員 (スポーツ少年団)	各務原市では障がい者スポーツを体験する機会がない	①地域で障がい者のことを理解して行ってほしい。例えば、小学校5年生は学校（福祉教育）で車いすバスケットを呼んでいる。これを、児童だけではなく、地域の人も見学できるようにしたらいいのでは。例えばサッカー協会と協力をして、ブラインドサッカーのイベントを実施するなどしてはどうか。いずれにせよ各種目協会の協力が必要となる。 ②担い手不足に関しては、地域で解消するのは難しい。市内に大学はあるが、学生は「単位」がもらえないとなかなか動いてくれない。これまでも、働きかけをしているが、なかなか実現しない。 ③知っているが、市民には知れ渡っていない。もう少し盛り上げられないかなと思う。例えば、アピールしたいイベントなどがあれば、子供に絵をかかせて、各所（生協等）に張り出してPRするのはどうか。	障がい者スポーツ実施機会 スポーツの認知度 関係者の高齢化
	市内の小中学校の連合スポーツ大会があった。広報紙に載っており、参加もしていたがイベントのことを知らない人が多い。市民に周知し、場面を作っていくべき。		
	学校の授業で車いすバスケットの選手に来てもらう機会がある。 いいことをしているので、子どもだけでなく市民に対しても実施しないと意味がない。		
	大会を実施しようと思っても役員などの高齢化が進んでいる。やってくれる人がいない厳しい現状。		
	ホッケーの試合は観に行くが、全然観客がいない。		
	広報紙でPRしても若い人は見ない。幼稚園、小学校にもパンフレットを配らないと。		

委員	委員意見内容	訪問ヒアリングで出た意見	課題キーワード
中野委員 (シニアクラブ連合会)	高齢者の立場でしか申し上げられないが、スポーツを通じて健康長寿を考えていきたい。	①スポーツを通じた健康長寿を考えてほしい。 ②グラゴルは3年後くらいに国スポ種目ではなくなる。旅費も協会での負担がないので、お金のある人しか参加しなくなっている。グラゴルの普及のために、小学校の子どもへ授業で体験していただく機会づくりをしていただきたい。 ③フレイル予防事業として、社協など色々な部署が開催しているが、どこも同じようなことをしている。もっと各所で連携した方が良いと思う。競技はボッチャがよい。室内でもできるため、移動手段がない高齢者でも近くの公民館でできる。軽スポーツ用具は近くで借りられるとよい。今は総合体育館まで行かないといけない。 ④シニアクラブでは、フレイル予防で来年度eスポーツを流行らせようとしている。eスポーツもそうだが、自分たちが体験してみないと広めることができない。 ⑤3世代で楽しめるようなスポーツがあればよい。 ⑥今後はスポーツの継続性がなくなっていくことが問題だと考える。	高齢者スポーツの推進 スポーツの持続可能性

委員	委員意見内容	訪問ヒアリングで出た意見	課題キーワード
北角委員 (商工会議所)	10年間の推進計画を考えていくにあたって、スポーツがやりにくい時代になっていくのかなと思う。	スポーツは幼少期からなじみがないとやれない。現在は親の関与干渉が必須で、どんどんアメリカのようなスタイル（送迎、教室）になってきている。誰でも自由に遊べる公園（プレーパーク）などを利用して学べる機会が増えるとよい。	スポーツへのアクセス性
	小学生の段階でどうやっていくのか、指導していくのか、指導者の問題でもあるとか、スポーツをやるにあたっての障害が大きくなってきていると思う。	①指導者については、行政が抱えるべきだと思う。もともとは学校の先生の働き方改革で始まったもので、そこを地域や企業でやろうとしているが、国等の補助を使用して困った方がいいと考える。 ②大学生との連携については、もしかしたら大学生の「足かせ」になるのではないかなと思う。大学生でスポーツをやっている子たちは「勝ち」にきている子が大半なので、協力は、難しいのではないのかなと思う。 ③「指導者/受講者」という考えではなく、その間があってもいいと思う。「自分たちだけでやるスポーツ」で、自発的に遊ぶようなことがあってもいいと思う。	指導者の不足
	多くの人にスポーツに関わってもらうなら、従来の考えから一歩外れて、色々な考え・案を出しておいた方がいいのかなと思う。	①市のイベントをまとめたサイトがあったらいい（スポーツだけでなく、文化、観光も含む）。市の施設について、市外の利用者が多い。 ②eスポーツはあくまで「ゲーム大会」と思っている、また、スポーツの「ルール」を覚えるためにゲームから入るのもありかもしれないが、ゲーム→スポーツの順となると「ダルく」なってしまうので、実施するのであれば並行実施がいいかなと思う。あくまでスポーツの導入部のきっかけとなればいいと考えてる。	スポーツへのアクセス性

委員	委員意見内容	訪問ヒアリングで出た意見	課題キーワード
足立委員 (体育振興会)	推進計画は分厚く作成されているが、現場の意見が入っていないのではと思う。意見を踏まえたうえで、冊子を作ってまとめるというのがいいと思う。	①コロナから人の動きが悪くなった。声をかけても人が集まらなくなっている。 校区内のイベントであるグラウンド・ゴルフ大会も以前はよく集まっていたが、高齢化で車では来ることができず、人が減っている。	スポーツへのアクセス性 スポーツの認知度 障がい者スポーツ・高齢者スポーツ実施環境
	皆さんの意見を聞いていると「理想のものができあがりました。でも各務原市はこうじゃないんですよ」という意見が感じられたので、現場を踏まえた意見を作った方がいいのではと思った。	②地域ではガラッキーなどの軽スポーツも推奨している。 ③障がい者から高齢者まで幅広くスポーツに参加してもらうのは難しいように思える。 ④シティマラソンは市全体で盛り上げようとしている感じがしない。一部分だけで実施している気がする。ボランティアももっと幅広く募っては。 ⑤「ホッケー王国かかみがはら」に対する周知が足りないと感じる。 ⑥とにかく周知が大事だと思う。今あるイベントも参加人数を増やすなどしていけば良いと思う。	

委員	委員意見内容	訪問ヒアリングで出た意見	課題キーワード
今尾委員 (小中学校長会)	今後スポーツをどのように扱っていくかが、計画に現れていない。生活スタイルが大きく変わってきており、保護者・若者がスポーツに費やす時間より他の娯楽を選んでいるなどと思うが、市としてスポーツをどう扱っていくかというところが、不透明。	①子どもに「スポーツが上手になりたい」という向上心がない。厳しいことを言うとすぐに逃げてしまう。学校は子どもの居場所であるため、学校に来て体育や外遊びをするが、学校以外の場所においてスポーツ活動で人を集めることが大変になってきている。ほかの娯楽があり、スポーツに対する意味合いも変わってきている。 ②スポーツは健康になるし必要だと思うが、子どもだけでなく親も必要性をあまり感じていないように思われる。 ③学校でみても、運動神経抜群と感じる子どもが昔と比べて減っている印象。公園で遊ぶにしても、ゲームを持ち寄って遊ぶなどして運動にはつながらない。 ④親が子どもと小さい頃から体を動かしているのかも重要。親がスマホなどに夢中で一緒に遊ばない形も見られる。 ⑤子どもはスポーツをしたいと思っている場合もあるが、スポーツクラブはお金がかかり、スポーツ少年団は当番があるなど親が負担に感じていることもあり、結果子どもがスポーツをすることができないといった家庭も見られる。 ⑥学校体育においても、鉄棒、縄跳び、水泳などで、できる技などが減ってきている。 ⑦教員の指導体制も変わってきており、運動指導が苦手な教員も増えてきている。 ⑧低学年までは、親子で楽しめる機会が必要。 ⑨体験会やスポーツスクールなどのPR、周知をもう少ししてほしい。 ⑩スポ少はこれからどんどん減っていくように思える。スポーツに興味・関心がない人を参加させるというよりは、スポーツに関心がある人たちを離れさせないような施策が必要。スポーツ好きな人のためのイベントが色々なところで行われ、そこに子どもが参加していくような姿になれば良いと思う。	スポーツ実施環境 スポーツへのアクセス性 スポーツの価値形成
	遊ぶことが「スポーツ」という感覚が弱い子が多い。体は動かすけど、スポーツとして「上手になりたい・のめりこむ」ほどとなると、足踏みするようなことが起こっていると思う。これは子どもだけでなく親もそういう感じかなと思う。スポーツではない「違うこと」を選んでいる気がする。		
	今までは学校で子どもたちをという世の中だったものが、いよいよ地域へといったときに、地域であるいは大人がスポーツをする機会があって、どれくらいの人達を集められるのかといったときに、12pのスポーツをやらない理由の「時間が無い」が多いが、「できない」のか「しないのか」、「きっかけや機会が無い」といったときに、スポーツの価値がこれを超えられるのか。		
	計画を立てていくにあたり、いかに市民を巻き込むかといった価値・問題があると思う。スポーツ離れの時代から、いかにスポーツに価値を見出して、そこに触れる機会を増やしていくかという部分で大きな動きが必要ではないかなと思う。		

委員	委員意見内容	訪問ヒアリングで出た意見	課題キーワード
杉山委員 (障害者団体連合会)	障がい者スポーツを知らないという市民が半数以上(37p)。 一般のスポーツと全然立場の違う「遊び」に近い状態が障がい者の中にある。	①スポーツの意識改革のために簡単な運動などを盛り込むことは納得できる。ウォーキングなどを10年先の目標として入れるのはいいのでは。ラジオ体操もいい例であればスポーツのひとつである。 ②シティマラソンはこれからも続けてほしい。今まで関心のなかった人をわずかでも参加してもらえるようにしていけばいいのでは。パターゴルフ場で行われている大会は景品が良いので大人数が参加している。市のイベントも協賛をより行い、誘客するなど色々なことをして行ってほしい。 ③障害のある人たちを集めたスポーツの催しを年に1回開催してほしい。 ④ホッケーについては、高齢者や障がい者が参加できるようなレクリエーションのような形で何か実施されるとよい。やわからいスティックやボールを使用して。	スポーツの認知度 スポーツ実施率 スポーツへのアクセス性
	5年先10年先の数値目標を見ると、悪く言って申し訳ないが、無理やりでも5%、10%上げるとかその数字を見ると、本当にそこまで行けるのかなと思う。		
	「皆さんが(スポーツに)参加できる」というのは、不可能だと障がい者を目の当たりにして思う。		
	目標に定めたものについて、レベルを上げて5人を10人にしようというものは、努力でできるかというとは不可能だと思う。 できればある程度の目標値の検討は、様々な意見の中で検討してもよい。10年先まで高齢者も障がい者も健康でいられるようなことを目標にする値の検討が必要だと思う。		

委員	委員意見内容	訪問ヒアリングで出た意見	課題キーワード
大矢委員 (企画総務部長)	なぜ本市は低いのか その理由がわからない限り実施率の向上は困難。 全国や県と比較してどうしてここまで差が出るのか。本市が低くなっている理由も示していないのになぜ周知啓発で参加を促すことが必要だと言えるのか。		スポーツ実施率
	そもそもスポーツに興味がない人が多いのでは。そういうひとたちにアピールしてもダメなのは。広報紙以外でも周知しているが、これ以上どこで何を使って伝えるのか		スポーツに関する周知
	指導者不足の増加が顕著。指導者不足によってどんな影響が出ているのか。これで果たして指導者の量と質が確保できるのか。どう頑張ってもスポーツの指導者は今後も減っていくのでは そうだとすると、減っていく中で生じる問題にどう対応するのか、ということを考える必要があるのでは。		指導者の確保・育成